

2014年1月9日(木)

プラナン初日



バンコクに早朝到着し、3時間ほどの待時間の後、昼前にクラビ空港に着く。そこからアオナンまでタクシーに乗り、船でライレイウェストに渡り、半島を横切って宿や岩場のあるイーストに行くつもりであった(イーストに上陸すると、海の中を多少歩かなければならないため)。ところが何を間違えたか、船はウェストには行かずにイーストに行っ

てしまう。おかげで海の中を歩かされる羽目になってしまったが、まあ大した歩きではなかったのによしとしましょう。

宿でしばらく休んだ後、近くの岩場に向かう。5.9 から 10a くらいの易しいルートを3本ほど足慣らしに登って明日からの本格的なクライミングに備えることにする。

2014 年 1 月 10 日 (金)

プラナン二日目

宿の近くの1-2-3エリアは講習会が開かれて混むとのことだったので、朝食前に一登りしようと暗いうちから宿を出て岩場に向かう。

6時半に岩場に着くが、さすがにこの時間では誰もいない。早速予定していた左側の6aのルートに登ろうとするが、上部がかなり被っていて朝一番で登るのには少々きつい気がしたので、ずっと右側にある5.9のルートでアップすることにした。さらにその左隣にも同グレードのルートがあったので、そちらも登ったが、三人で登るとそこそこ時間がかかってしまったので、朝のクライミングはそれまでとし、宿に戻り遅い朝食を食べる。朝食と昼食を兼ねようという魂胆から、食堂がクローズする10時まで粘ってから部屋に戻る。

しばらく部屋でくつろいだから、12時に宿を出て午後のクライミングに向かう。宿のあるイーストの反対側のウェスト側の岩場を登るつもりであった。ウェストの海岸はイーストと違って砂浜が続いていて大勢の海水浴客でにぎわっている。



砂浜から少し山側に踏み跡を辿って行くと目的の岩場に着くが、既に大勢のクライマーによって目ぼしいルートは占拠されている。そこでやむをえず、朝登り残した1-2-3エリアの6aのルートをのぼりに行くことにした。ところがこちらにも大にぎわいであったため、もう少し奥の DuncansBoot に移動する。こちらは誰も登っておらず貸切状態となった。

まずは6aをオンサイト。ガバの連続だがなかなかパワフルなルートであった。次は左隣の6bのマスターオンサイトを狙うが、ワンテンでトップアウトとなる。最後は右側の6c(11b)にトライする。核心でホールドを探しているうちに疲れてテンションが入ってしまったが、その後は終了点まで特に問題がなかったので、ホールドがわかってしまえば、かなりお買い得の6cであると言える。まあお買い得であるにしろ、今回の目標であった6cにはやくも到達しかかったのは大きな成果であると言える。

明日は少し離れたトンサイエリアを登る予定である。

2014年1月11日(土)

プラナン三日目



今日は山越えをしてトンサイの岩場に行ってきた。二子の弓状以上の凄い前傾壁だ

が、世界中のクライマーが集まってくるのか、どこのルートも盛況である。これらのエリアは我々が登れる所ではないので、もう少しマイルドなエリアということでFireWallというエリアに向かう。幸いこちらのエリアは誰も登っていないと喜んだのも束の間、深くえぐれた凹状の6aのルートを登り出すと、直射日光をまともに受けて、フライパンの上の目玉焼き状態となり、頭がぼーっとなりながら、早く終了点にたどり着くことだけを考えて25メートルの長いルートをのぼりきった。

このエリアは早々に退散して、近くのWildKingdomに向かう。登ろうとしていた一番左の6aのルートには先行パーティーがいたので、隣の6b(10d)のルートに取り付く。核心の部分で左の甘いホールドに荷重して乗り越せると踏んだのだが、支え切れずによもやのフォール。それでは今度は右側のコルネを利用して思ったが、こちらの方が更に難しく感じたので、また左の方から登り直して、こんどはなんとか突破することができた。

次は隣の6aのルートが空いたので、そこを登って本日は終了とする。3本と本数はすくないが、今日は暑さで少々グロッキー気味なので無理をしないことにする。

1日に登る本数が少ないので、連日登り続けても構わないのだが、せっかくタイまで来たのだからと言うことで、明日はレストということにして、有名なピピ島への観光ツアーに参加することとなった。

2014年1月13日(月)

プラナン四日目



今日はクライミングのレスト日とし、ピピ島へのツアーに参加してきた。ただ同行者の1人は前に行ったことがあり、もう1人は体調を崩したために私1人の参加となる。

集合場所では時間になっても誰も来ない。こんなことには慣れっこになっているので気長に待っ。予定よりも40分遅れてライレイウエストを出発する。

途中いくつかの島に立ち寄ったものの、どこかなんという島かはよくわからなかったが、写真の島は映画のロケ地として使われた所だそう。ただそれよりもボルダ一天国のような素晴らしい所という印象が強く、ビーチサンダルで少し登ってみたが、何日もいたいエリアである。

屋前に沖合でシュノーケリングをやる。泳ぎは苦手であるが、ライフジャケット着用なので問題はない。何人かはライフジャケットは要らないと断っていた。よほど泳ぎに自信があるのだろう。うらやましい限りである。シュノーケリングは2回目であるが、前回の沖縄と比べると珊瑚礁の美しさでは数段劣る気がした。

そのあとピピ島の本島(多分)に上陸し、やや遅めの昼食をとる。バイキングであるが、なかなか豪勢で、これで1400バーツ(約4200円)とはなかなかお買い得なツアーである。

その後、もういちどシュノーケリングがあったが、席を変ってしまったため、先程使用した道具がどこにいったかわからなくなってしまったし、今回は海岸近くのため、珊瑚礁も期待できなかったためパスしてしまった。

プラナンに戻って、ホテルに着いてみると、体調を崩していた1人は依然物が食べられない状態のようだし、もう1人も腹をこわして夕食は食べられないとのことなので、今夜は1人寂しく食事をするこてなる。同じものを食べながら1人胃腸がやられずにいる私の方が異常なのだろうか

1人の食事ということになったので、ウェストとイーストの中間で見かけて気になっていたインド料理店に行ってみる。サモサ(インド風野菜コロッケ)とタンドリーチキンを注文する。後者はインドでずいぶん食べたが、本場を上回る味で、この店を選んだのは正解だった。

時間があれば、タイ式マッサージをもと思ったが、ネットカフェによったりして時間がなくなったので明日に回すことにした。

プラナン五日目

今日はもう1人も体調を崩しているなので、午前中はレストとして、午後からは二日目にテンションが入ってしまった DuncansBoot の6c(11b)のマスターRPを目指す。まずは6aでアップした後、本命の6cにトライする。ホールドがわかっているなので、特に問題もなくRP。



赤線が 6cのライン

他の6b(10d)よりも易しく感じたので、超お買い得な6cである。そうは言っても「腐っても鯛」ではないが、「腐ってもタイの6c」である。これでプラナンを訪れた目的の最低限は果たせたので、後はお気軽モードで行こうと、講習会が開かれている1-2-3エリアに移って体調を崩している二人のために左端の6aルートにトップロープを張ろうとしていると、たまたまスタート地点が6aと6a+で一緒だったため、客を連れた現地ガイドがやってきて、どっちを登るのだと聞くので、6aだと答えると、彼は6a+を登ることにしたようだ。ところが6aにトップロープを張り終えて見上げると、件のガイドがなんと6a+の途中でテンションをかけて

他のガイドから冷やかされているのではないかと。きっと6aの方を登りたかっただろうに悪いことをしてしまった。おまけに客の方がトップロープとはいえノーテンで登ってしまったので、ガイドの面目丸潰れである。おそらく資格制度も未整備なので、ガイドの実力も千差万別なのだろう。

まだ時間が早かったのでクールダウンを兼ねて5.9のルートに登ろうとしたが、どこも講習会で満員のため、きょうはこれで終了とすることにした。

ハードなクライミングをしているわけではないが、せっかくタイに来たのだからとタイ式マッサージで1日を終えることにする。リフレッシュして明日はパワー全開となるかどうか

2014年1月14日(火)

プラナン6日目

同行者二人は相変わらず体調が悪いようだが、私のビレイには付き合ってくれることになった。

そこでウエストの Thailand Wall を登ることになった。



眼下に海を臨む素晴らしいロケーションであるが、頭上の何段にも連なるオーバーハングのスケールに圧倒されたことや、自分1人だけが登ることによるテンションの低下

のため、なかなか登る気にならず、一番迫力のない左端の6a+(10c)のルートでお茶を濁すことにした。

下部は簡単だが、上部の棚に上がる直前がやや難しく、10cは妥当なグレーディングである。これで多少調子がでてきたので、中央右側の25メートルの長い6a+のルートも登ってみることにした。ただこちらは長いだけで核心と言える部分がなく、少しグレーディングが甘いのではないかと感じた。

今日は難しいルートに登る気がなかったので、エリアを変えて Wees Present Wall に移動する。こちらは6a+のルートに登ると、終了点が7aのルートと同じなので、7aのルートをトップロープでトライできると期待していたが、物凄い人出だったので早々に退散してイーストの安レストランに昼を食べに行った。

昼食後にメンバーの1人が1日早く帰るということで、今晚のフライトに乗るためにクラブ空港を目指して、乗船していった。

今回のスケジュールもこれでほぼ予定通り終え、ツアーの思い出を反芻しながら最後の夜を過ごすところであるが、ここで恐れていた事態が起これかねない状況になってきた。タイの反政府デモが15日までに首相が退陣しない場合には航空管制を占拠する動きに出たという衝撃的な情報である。そんなことになれば帰国は大幅に遅れてしまうが、やきもきしてもいたしかたない。幸運を祈るのみである。

2014年1月16日(木)

帰国

プラナン最終日になって、バンコクの政治情勢は緊迫の度を増して、空港閉鎖も時間の問題となってきた。反政府側からの要求回答期限の15日の終夜便で帰国予定のため、滑り込みでセーフとなる公算が高いが、予断を許さない状況であることには違いない。

早くクラビ空港に行ったからとて、どうにでもなるわけでもないが、バンコク空港の様子が多少なりともわかるのではないかというかすかな希望から、朝食後すぐに船着き場に向かう。ところが8人揃って初めて出港するというのに、後の6人が一向に集まらない。1時間待ってついにしびれを切らしてホテルに戻り、少し割高だがタクシーとセットになって、直接空港まで行けるプランに変更することにした。こちらの方はすぐに客が集まり、1週間に及んだプラナン滞在に別れを告げることになる。

クラビ空港に着くと、バンコク空港へのフライトは通常どおりなので、すくなくともまだバンコク空港は閉鎖されていないことがわかって、まずは一安心する。クラビ空港で6時間近く待ってようやくバンコク行きの便に乗り込む。

バンコク空港に到着してあたりの様子をうかがっても特に変わったところはないので、これで予定通り帰国できるだろうという見通しが立ってきた。4時間ほどの待ち時間の後に羽田行きの便に搭乗することができ、綱渡りながら帰国の途につくこととなった。